

日常への戻り方を考える

一般財団法人ジオ政策研究所 代表理事 西脇邦雄

業、宿泊業で働く女性、非正規の労働者、中でもシングルマザーにコロナショックが集中しました。従来からあった格差、社会の弱い部分を直撃する事態でした。



代表理事 西脇邦雄

環境危機と格差の問題が浮き彫りに

今回のパンデミックでは、地球環境危機と経済格差の拡大の問題が浮き彫りになりました。自然界奥深くに人間の活動が及ぶことで、動物が宿主のウイルスが変異しヒトに感染する。最新の知見では、北極の温暖化が偏西風の流れを変え、この冬の猛烈な寒波を引き起こしたと言います。温暖化だけでなく、気候変動、異常気象という危機の時代の幕開けです。新型コロナによるロックダウンが経済に急ブレーキをかけ、きれいな空気や水が取り戻せたのは皮肉というかもしれません。Z世代の若者が問いかける永遠の成長というおとぎ話(グレッタ・トゥンベリ)や、「コロナ禍は気候変動が引き起こす慢性的な緊急事態へのリハーサル」(斎藤幸平)という指摘に、私たちはどう向き合うべきでしょうか。

感染当初リーマンショック並みの失業率となり、飲食

ジオ政策研究所への日頃からのご支援に感謝いたします。

本年も変わらぬご支援をよろしくお願いします。

政府は、2023年5月に感染症の指定を5類へ変更すると決定しました。日常が戻る、経済を回すとの言葉がメディアから繰り返されています。しかし、私たちは今回のパンデミックから学んだことを忘れ、元の日常へ戻ることを簡単に受け入れていいのでしょうか。

大阪版ポストコロナ社会の構想

新しい大阪の都市像として、大阪都心部への人口集中の是正、300Km圏に分散型都市のネットワークを構想したい。それは、御堂筋の容積率緩和による高層マンション林立ではなく、千里泉北のニュータウンの再生、箕面森町、阪南スカイタウン、テクノステージ和泉などのポテンシャルを活かした分散型都市の展開です。また、難波から段階的に北へ進む御堂筋の歩行者優先のストリートの実現は、環境モデル都市という目標を掲げる大阪の新たなシンボルになるでしょう。特にG20大阪で、世界に先駆けてブルーオーシャンビジョンを提唱し、海洋プラスチック汚染問題への取り組み姿勢も鮮明していることを忘れてはなりません。

環境と格差への対応として、ステイホームのホームを失わないために居住支援の充実、特に公営住宅や低所得受け住宅の環境配慮型住宅NPOへの転換などによる緑の雇用の拡大を求めたい。大阪の生活困窮者で最低居住面積を満たしていない世帯は69万8千世帯と言われます(2019年大阪府住宅まちづくり審議会資料)。ドイツでは大規模団地で省エネ改修を行い、若い世代が希望する住環境に建て替えが進みました(ポツダムのスラム街の再生)。

歴史の転換の時、市民が参加し、ポストコロナ社会を展望する仕組みづくりとともに考える年にしたいと思います。

2022年5月2日 大阪大学「平和のための集中講義」

藤本和貴夫先生(大阪経済法科大学元学長)の講演です。

2004年イラク侵攻の翌年に始まった大阪大学

「平和のための集中講義」@国際公共政策学科。

今年もやらないといけないう事態に、、、木戸先生の挨拶。

プーチンの「ロシアウクライナベラルーシ民族の一体性」長大な論文が昨年7月12日。アメリカは侵攻を挑発していた。

なんと1月31日全ロシア将校協会がプーチンの孤立政策を批判した声明を発表していた。トルコがやっているように日本も停戦交渉の仲介をすべきだがやらない。国際的な圧力と共に中国インドと東方の隣国日本が役割を果たすべきだと指摘。



「藤本和貴夫(大阪経済法科大学元学長)の講演」

2023年はサッカー女子ワールドカップイヤー



昨年の FIFA WCはメッシ(アルゼンチン)とエムバペ(フランス)の決勝戦、また、ドイツ、スペインの強豪に勝利した若き森安日本の活躍に日本中が沸いた。今年は女子ワールドカップが7月20日から1ヶ月、ニュージーランドとオーストラリアの共同開催で行われる。出場国は32、アジア枠は日本、中国、韓国、ベトナム(初出場)、フィリピン(初出場)に加え、台湾が2月17日からプレーオフを戦う。2011年になでしこジャパンがアメリカにPK戦を制し世界制覇をしたことは記憶に新しい。U-20 女子WCにおいて2018年優勝、2022年準優勝と若手を育成してきた池田監督、新しい代表は、急成長するイギリスなどの欧州勢、大国アメリカにどこまで通用するのか注目です。



「なでしこジャパンに招集されている宝田沙織選手(アカデミー堺卒業生)」

USAキャンプを再開—JFAアカデミー堺

1月28・29日@JGREEM堺、レディースフェスティバルと3年生の成果発表会が開催された。コロナ禍で活動できずにきたUSAキャンプを再開すると聞き、後援会から寄付を行った。2012年の後援会発足から10年が経過した。未来の日本代表を目指し、強豪校へ進学するアカデミー生たち。小学校6年生の時に親元を離れ寮生活に入る決意をする彼女たちに息の長い応援を続けたい。



「スクールマスター 藤縄会長」



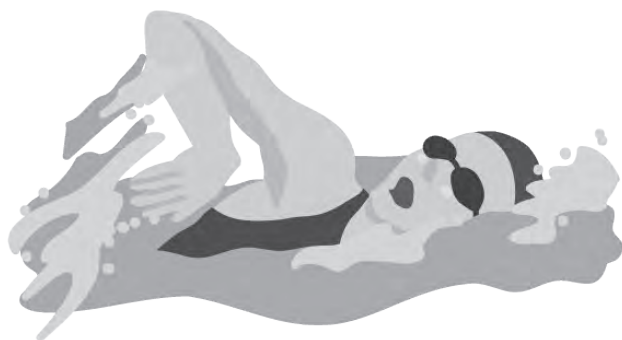
「アカデミー堺の選手たち」



「後援会より寄付」

井村雅代先生世界水泳2023in福岡に挑む

10月30日@桃山学院教育大学。井村雅代先生の講演会、比嘉悟副学長からご案内をいただき久しぶりにお話が聞けると駆けつけた。いつもの熱い語りは変わらない。東京オリンピックは不完全燃焼だった様子で、乾選手を率いてもう一度世界水泳in福岡へ挑戦したいと決意を語られた。期間は2023年7月14日から1ヶ月。2人の活躍から目が離せない。



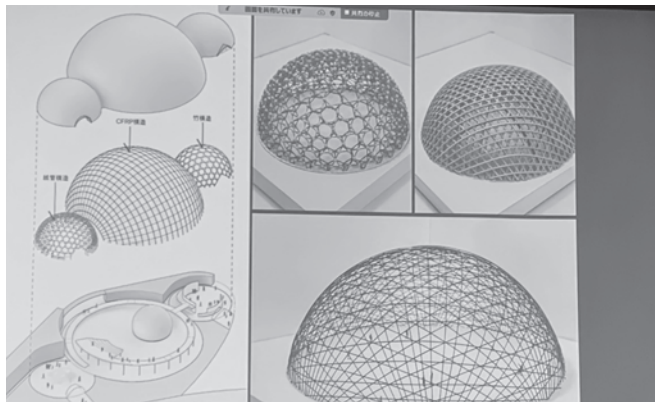


万博からイノベーションを 更家社長

1月25日新春トップセミナー「ブルーオーシャンプロジェクト」に参加。2025大阪・関西万博にNPO法人ZERIジャパンの代表理事の更家悠介氏がパビリオンを出展するお話は伺っていたのだが、パリ、ポンピドーセンターに事務所を構える世界的な建築家坂茂氏が設計を担当する。「このパビリオンにおいて、日本が世界に先行する先端技術を、近未来の建築の材料や工法として実現させることで、これらの技術が社会へと広く普及・展開していくことを目指す。具体的には、1) カーボンファイバー、紙管、竹という3つの材料を使った建築構造、2) 廃棄物を徹底的に削減した仮設建築、という2つのキーワードを軸に構成し、地盤沈下する夢洲に合わせた構造物にしたい」とのこと。鉄筋コンクリートは50年も持たないけれど木造と紙や竹材は何千年続く。しかし日本はこの技術を継承発展していないと指摘された。

ルノーの工場、swatch本社ビル、台南市美術館、銀座swatchビルなど世界に木材と紙の建築を広げている。災害対応もダンボールハウスや間仕切りのある空間を最初に提案されている。

また、更家社長からは対馬に海洋プラスチックが流れ着く問題を大阪の経済界が支援する「対馬プロジェクト」の紹介がされた。大阪発イノベーションの取組みをぜひ推進してほしい。



パビリオンの構想



紙管と竹の建築家 坂茂さん

ティグレもおかげさまで50周年です

1月6日、3年ぶりティグレ新春のつどい@ホテルニューオータニ。故上田卓三会長の肉声ビデオ、橘代表挨拶、絆の太鼓、そして衰えを感じさせない野口五郎ディナーショー!今年ティグレグループ50周年の大きな節目。

「差別と不平等に挑戦する」「中小企業に政治の光を」を掲げて歩んできた道を税理士法人、社労士法人、行政書士法人によるワンストップサービスを武器に更なる発展に期待!



太鼓集団 絆

10月8日中秋名月祭に参加



中秋名月祭2022

中秋名月祭が、JR森ノ宮駅すぐの難波の宮で開催された。

ここ数年は、台風での中止やオンラインでの開催を余儀なくされてきたが、友人の胡士雲先生、梶本元副知事や三宅大阪府議会副議長など、皆さんと久しぶりの再会を喜んだ。14年前から大阪の華僑の皆さん、日中友好協会大阪府、大阪市の協賛のもとに続けられている。そして2022年は日中友好50年の記念すべき年。実行委員長は、老華僑と華人の結束とともに、日本の地域社会への貢献を訴えられた。米中対立や東アジアの高まる緊張の中で、草の根市民交流が平和を醸成する力となる。

インでの開催を余儀なくされてきたが、友人の胡士雲先生、梶本元副知事や三宅大阪府議会副議長など、皆さんと久しぶりの再会を喜んだ。14年前から大阪の華僑の皆さん、日中友好協会大阪府、大阪市の協賛のもとに続けられている。そして2022年は日中友好50年の記念すべき年。実行委員長は、老華僑と華人の結束とともに、日本の地域社会への貢献を訴えられた。米中対立や東アジアの高まる緊張の中で、草の根市民交流が平和を醸成する力となる。

1月6日斎藤幸平さんの講演に参加—出発の集い (部落解放同盟大阪府連)

「マルクス主義では、差別の問題は経済格差の問題へと矮小化されてきた。『革命が起きれば、差別の問題も解消される』という経済決定論から決別する必要がある。水平社創立100年でビデオメッセージを依頼されて戸惑った。格差や貧困と切り離せない差別の問題を十分に勉強してこなかったからだ。北芝、浅香を訪ね、様々な学びを得て『コモン型社会』のヒントをもらった。」(解放新聞2023年1月15日版) 気候危機や貧困、ジェンダー、部落差別、マジョリティは当事者でない立場にいられる人。あらゆる問題にコミットできるわけではないが、共事者として学び関われる。

マルクスの自然科学ノートを読み解く新進気鋭の経済思想家と、水平社宣言から101年目の歩み始める運動のコラボは楽しみです。



斎藤幸平

学校統廃合の未来のデザイナー—いくのコーライズパーク

2020年4月大阪市立学校活性化条例が改正され、小学校の学級数が11学級以下の学校を分類し、統廃合の対象とすることが決められた。生野区でも12校を4校に減らす再編整備計画が示され議論が巻き起こった。学校が無くなると決められた地域はより過疎化するのでは?低学年の通学の安全は?など、閉校される地域の悩みはつきない。

そのような状況で、地域と連携するNPOと企業がコラボし、コリアタウンの真ん中にある御幸森小学校でユニークな跡地活用の取り組みが進められている。

10月30日には、生まれ変わった御幸森小学校の多文化クロッシングフェスが開催。指定管理者は、NPOふらっと+リタウンさん。体育館はミニバス教室(SPIRIT ACADEMY basketball school.大阪えべっさ今野選手+山田運送株式会社)、図書館は木のぬくもりを感じる「ふくろうの森」にリニューアル、学校が新しい空間に生まれ変わる。



多文化クロッシングフェス



体育館がリニューアル

GIO NEWS

No.11 2023年春季号 発行／一般財団法人ジオ政策研究所 発行人:西脇 邦雄 www.gioweb.org
事務局 〒544-0015 大阪市生野区巽南 3-7-30 TEL06-6757-9203 FAX06-6752-3391